

令和7年度 学校評価 崇広小学校パワーアッププラン

1. 目標・方針

中期的な学校運営の 目標・方針	学校教育目標 「ふるさとを愛し 自ら学び続ける 心優しい崇広っ子の育成」 めざす学校像 安全・安心な学校・信頼される学校・地域とともにある学校
本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が主体的に学ぶ（自走できる児童の育成に向けた）授業づくりの推進 ・学校内外における安全・安心の推進 ・情報教育（プレゼンテーションスキルの向上、情報モラル教育を含む）の充実

2. 自己評価（達成状況 A:優れている B:おおむね良好 C:やや改善 D:要改善）

領域	観点	評価項目	達成状況	学校の取組状況と改善の方策
学校運営	学校経営 <small>（学校教育目標）</small>	学校教育目標の達成に向け、教職員が一丸となり取り組めたか。	A	<p>児童一人ひとりが目標をもち、ねばり強く学びに向かおうとする姿勢が日頃の学校生活での姿勢や保護者・児童の学校評価アンケート結果からも見られる。その一方で、受け身な姿勢の児童も見られるため、そういった実態を教職員で共通理解し、今後も児童が自ら考えて判断し、行動していく力を伸ばせるよう教職員が意識して環境づくりに積極的に取り組んでいきたい。現在、校内研修で取り組んでいる自由進度学習の学び方は、学校生活の様々な場面において、児童が主体的に、ねばり強く、自ら判断して行動できる姿勢を高めることにも繋がると考える。そのため、学校改革と研究推進とがより連携していくことも児童の主体性やねばり強さを高めていくという意味で大切である。</p> <p>学校評価アンケート項目「人に優しくできている」の回答結果の割合が児童・保護者ともに高かった。教職員が一人ひとりの違いを認め、周りの人を大切にすることの指導や自尊感情を高めるようなそれぞれの児童に合った工夫を日々心がけている効果であると考えられる。また、本年度より、ロイロノートを用いて、友だちや家族等に「ありがとう」を伝える『ありがとうカード』を学校全体として取り組んでおり、学校長が取りまとめて配信し、友だちの記入した「ありがとう」が相手に届くようになっている。人に感謝する気持ちや自尊感情を高めるきっかけになっていると考えられる。「自分の良いところを知っている」の質問に肯定的な回答をする児童の割合が昨年度よりも少し高まってきていることから、年間を通して、且つ、引き続き今後も取組を継続していく。一方で、自尊感情が低い児童も現状まだ多く見られるため、日常生活や道徳の学習、縦割り班活動の異学年交流等の場面を通して、良い行動を価値づけていくことや自分の良さに気づける、自信をもたせる工夫を今後とも意識して取り組んでいきたい。</p> <p>生活科や社会科、総合的な学習の時間において、地域学習を行うカリキュラムが各学年系統的に設定されており、教職員もふるさとの良さを感じさせる取組を工夫している。また、地域の方々の協力を得て、教えていただく機会も多く、学校と地域の連携も充実しており、「ふるさと柏原」を大切にしようと感じている児童の割合は、昨年度より高まっている。今後も、児童の意識をさらに高めていくために、教職員自身も研修を行いながら地域を知ることにも努め、地域とも連携をとりながら、児童の学びを還元できるようにしていきたい。</p>
		自ら考え、自ら学び、自ら動く児童を育てるための授業や環境づくりに取り組み、児童一人ひとりが主体的に学ぶに向かうことができたか。	B	<p>分からないことや詳しく知りたいことがあった際、自分で学び方を考えたり、友だちを頼ったりしながら問題に取り組んでいると感じている児童の割合がアンケートの回答結果から昨年度よりも高くなっている。また、友だちと協働的に学ぶことに楽しさを感じている児童の割合も昨年度より高まっている。本年度は、校内研修で取り組んでいる自由進度学習に向けて、各学年の「1年間で目指す自画像」を検討した。また、児童の学習場面を「見通し」、「実行」、「振り返り」の3つの項目に分け、それらの各場面における目指す児童の姿やその姿に向かうための環境づくりや手立ての工夫について、教職員で出し合って整理した。その結果、教職員のアンケート回答結果から、「目指す自画像」をイメージした授業づくりに取り組む意識が高まっている様子が伺え、それが、日頃の授業づくりに反映され、児童の学ぶ姿勢の変化に繋がっていると考えられる。今後も、児童自ら考え、自ら学び、自ら動く児童を育てるための授業や環境づくりを教職員同士で実践を交流しながら取り組んでいきたい。その際、児童の実態に合わせて取り組むことが重要であると考えるため、教職員が児童一人ひとりの実態把握（特性含む）、児童の学びの姿を見取る力、それらをもとにした個に合った学びを提供する（工夫する）授業・環境づくりについて、今後とも研修を通して、教職員同士で高めていきたい。今年度の</p>

			<p>各学年の「目指す自走像」や1年間の学びを終えた児童の現状を照らし合わせて次年度に引き継ぎ、再度見直しながらブラッシュアップすることで、学校全体としての児童の主体的な学びに向かう姿の積み上げに繋がると考えている。</p> <p>家庭学習の宿題に関しては、自ら取り組んでいるという様子が保護者の学校評価アンケートの結果から伺える。しかし、宿題以外の学習（自主学習、読書、調べ学習等）について、主体的に取り組んでいるという肯定的な回答の割合は、保護者、児童、教職員とも昨年度よりも高まってきているが、他の項目より十分に取り組めていない課題が回答結果から共通して見られた。自主学習ノートの効果的な活用方法を含め、家庭学習についても方法や内容、手引きの作成等について、教職員間で再検討し、家庭学習を充実させていきたい。家庭学習を含めて、児童が主体的に学びに向かう姿、教職員の子どもたち一人ひとりに合った授業・環境づくりの力をより高めていくためにも、研究推進委員会を中心に、今年度の研修を通したより具体的な提案を作成し、次年度に繋げていきたい。</p>
課題教育	情報教育	<p>授業づくりや日常的な学校活動における効果的なタブレットの活用に取り組み、児童がタブレットを活用する力や発信力、情報モラルの意識は高まっているか。</p>	<p>A</p> <p>本年度より、新タブレットが配布され、教職員は新たな機能を研修で共通理解しながら授業等で積極的に活用している。児童も楽しみながら活用できている様子が見られる。タイピングにおいても、隙間時間を活用して練習に励む姿が見られ、タイピングスキルも学年が上がるごとに確実に向上している。「タブレットを積極的に活用できている」という項目の質問に肯定的な回答をする児童の割合が昨年度より高かった。また、タブレット等を用いて、「調べたり、まとめたりすること」や「相手に自分の考えや調べたことを伝えられている」という質問に対しても、肯定的な回答をする児童の割合が高かった。教職員は、タブレットの活用に関する研修をこまめに実施したり、職員研修でもタブレットで意見を集約する機会等を多くとったりしてきた。その結果、単に児童にタブレットを触らせる、調べさせる指導だけに留まらず、考えを整理して発信させる、授業外の学校行事や委員会活動の特別活動で活用させる等といった様々な場面での教職員の指導力の向上に繋がっていると考えられる。児童が学習で使用するものを撮影して学びに活用したり、自分のダンス動画を撮影してチェックしたり等、調べ・まとめ学習以外にも様々な教育場面で使用している様子も見られる。今後も学習を進める上で、タブレットを用いて児童が効果的に学べる環境を整え、情報活用能力や発信力がより高まることに繋がる指導ができるよう、教職員間でこまめな交流や研修を行ってきたい。</p> <p>児童の「タブレットを使う時のルールは守れている」の項目の質問に肯定的な回答をした児童の割合は高かったが、保護者の「情報モラルは身につけている」の項目の質問に対する回答には、やや課題が見られた。使用ルールを守っている意識はあるが、情報モラルに関する児童の認識に課題があるとも考えられる。児童のモラル意識については、各学年の道徳のカリキュラム内に情報モラルの学習を位置づけ、低学年から段階的な情報モラル指導を継続的に行い、情報モラル意識を高めようとしている。より便利になっていく現状の中で、新たな課題には反応してすぐに対応し、指導できるようにしていくことが今後も大切である。また、その課題を学習すべき内容として必要に応じて取り入れていくことや未然に防止できることを教職員で話し合い、意識して指導していくことが必要である。</p>

3. 学校関係者評価

<ul style="list-style-type: none"> ・児童の自走する力を伸ばしていくことを大切に、今後も児童一人ひとりに合った課題を明確にして手立てを考えていってもらいたい。また、家庭と学校の連携を図るために、学校の職員研修として取り組まれている「めざす自走像」も共有してもらいたい。 ・情報教育については、タブレットのタイピングや表現力を今後も高めていき、タブレットのみではなく、本や新聞のアナログ情報や教室での対話の内容など、広い意味の情報活用についても意識してもらいたい。 ・友だちや保護者、地域の方等に伝える「ありがとうカード」の取組を継続してもらい、より広く「ありがとう」が届くような手立てを今後とも進めてもらいたい。タブレットのみの交流に留まらず、「ありがとう」の言葉、「おはよう」、「さようなら」等の日頃の言葉のコミュニケーションも大切にしていってもらいたい。

4. 次年度の改善の方向性

令和7年度の学校評価を踏まえ、次年度は以下の改善を図る。

1. 主体的に学ぶ児童のさらなる育成

今後も「自走できる児童」の育成を意識し、授業や学校活動の中で児童自身が考え判断し、行動できる機会を増やす。学校だけではなく家庭学習においても、自主的に学習できる力を育てられるように教職員で案を出して取り組んでいく。また、自尊感情をより高めるために、友だち同士の良いところを見つける活動（全校生の「ありがとうカード」の取組等）や異学年交流による自己有用感を育む機会を継続し、より効果を高めていく。

2. 意欲的に学べる授業づくりの推進

児童が意欲的に学べる環境を整えるため、研究推進チームを中心に授業改善を進める。今年度も取り組んだ自由進度学習の在り方や児童が意欲的に学ぶための工夫を教職員で交流して、児童の実態に合った学習環境づくりを学校全体として高めていきたい。その際、個に応じた学びや協働的な学びを実現していくためには、その土台となる学級経営が重要となるため、学級経営の工夫やそれによる児童の反応等も研修を通して教職員全員で学び合い、学習環境の土台をより固めていく。

3. 情報活用能力とモラル教育の強化

タブレット活用力（タイピング能力やロイロノート活用）は定着しているが、情報発信力の向上や表現力、情報モラルの認識には課題が見られる。プレゼンテーションスキルの向上や、情報モラル教育の充実を図り、情報を正しく判断し、適切に活用する力を養う。

4. 地域・家庭との連携強化

学校関係者評価を踏まえ、今後も地域住民と児童が関わる機会を増やし、共に学ぶ活動を推進する。家庭との連携も深め、児童の成長を支える環境を整えていく。